

2024年1月1日(月)

大阪、初日の出



2024年1月2日(火) 晴れ

正月二日、大阪は冬晴れ。しかし気持ちは曇る。元日夕方に能登で大地震。大阪もけっこう揺れた。おとそ気分は一気にぬけた。気をひきしめた。

－ 覚めた －

世の中は「コロナ後」を満喫していた。年越しのニュースにはそんな話題がいっぱいだった。「ウクライナ」や「ガザ」は遠い。まずまずの年越しムードに自分自身ひたっていた。

いやいや、何が起るか分からない。「コロナ」で実感したあの感覚がよみがえった。お正月気分はふっとんだ。これ以上大きなことがあっても無くても、自分をしっかり生きる。そう心にきざむ年始です。

2024年1月5日(金)

(記事「夢」を誤って削除)

2024年1月7日(日)

大阪城公園梅林





2024年1月9日(火) 晴れ

三連休も大阪はまずまずのお天気だった。今朝はぐっと冷え込み、一日冬晴れの予報。年末から昨日にかけて飲んだ、食べた。しばらくはしっかりダイエット、のつもり。

— 空をみる —

年が明けると蠟梅が気になる。よく晴れた7日に大阪城公園の梅林にいった。年々ボリュームが少なくなっていそうだけど、咲き始めていた。「冬至」も白い花をいくつか咲かせていた。公園に観光客はたくさん来ているけど、梅林でみかけた人は二人だけ。

映画「パーフェスト・デイズ」で主人公が毎早朝、仕事へ出かけてに、まず空をちらっとみる。天気しだいの表情がいい、よくわかる。いい朝だなあ、雨か…。ひと仕事終えて、昼休憩の時も、みる。いつもの神社の同じ場所でパンをかじりながら、こもれびに目をほそめ、写真をとる。わかる。

空をみる。記憶では小学3年ぐらいからそうしていた。でもどうして空をみるのか。登山にならえば、そこに空があるから、空がよぶから…。「宇宙を感じる」から、というのは手っ取り早いけど、もっと細くなくぞっていききたいもの。でも、少々込み入ってしまいそうで、追って散歩しながらでも考えてみるとしよう。

－1月9日の「モンテニュー」－

わたしの国、そして今の時代では、学識は財布の中身をずいぶんよくはするが、魂をよくすることはめったにない。それが鈍い魂と出会うと、なまの不肖化の塊になって、それを重くし、窒息させる。もし冴えた魂と出会うと、すぐにそれを清め、明るくし、こまやかにし、ついにはかたちがないまでにこなれた状態にする。

2024年1月12日（金） 曇⇄晴

日の出時間が今日から反転して早くなり始める。これから少しずつ陽気が目にみえるようになる。梅も、桜の開花もはやいらしい。1月もまだ半分も過ぎていないけど、3月もあつという間にくる。

－ 電話 －

「メールはハードルが高いんで…」とオンライン会議の相手に話している青年。ごく側でたまたま聞いたことがあった。話には聞いていたけど、直接耳にしたのは初めてだった。そんな彼には手紙なんて、もう異次元のものかもしれない。電話さえ、コワイという人もいる。

電話は「コロナ」の時に再発見した。旧知の間柄には、会っているのとそう変わらない「旧交温め合う」媒体になる。話の内容以上に、声や話の「間」などが、その人らしさを表す。

年初から大変なことが続いた。なんとなく人をおもう気持ちになるのか、10日までの間に一人、二人、電話をもらった。いつもならメールだけど、今回は電話。

そして昨日ももらった。4日から被災地支援の専門職として能登へ行って帰ってきたばかり。マスメディアのニュースにのぼらない現場の状況、人びとの働きを聴き、言葉を絶す。

最初に電話をもらった旧知の人には、「またお便りします!」と言って、受話器を置いた。二人目の旧友には、「これからも連絡を取り合おう!」と言って、きった。一週間休んでまた被災地へ行くという昨日の人には、おくる言葉がなかった。自分は…という問いが、やはりある。

－1月10日の「モンテニュー」－

自然は、われわれに歩くための足をつけてくれたように、人生を送るための知恵をも与えてくれた。それは、哲学者たちの考え出したような、巧妙な、強健な、華麗なものではなく、われわれにふさわしい、平易で、健康的なものだ。

2024年1月15日(月) 曇

昨日の日曜はおだやかに晴れた。風がなかったので寒さをあまり感じなかった。今朝は明け方に降った雨が尾を引いた。今日は日中ずっと曇り空のよう。

－ 立春まで －

初詣はいつでもにすればいいのか、「立春まで」と住吉大社の宮司さんが答えていた。そもそも立春が初詣の日なのだろうと思う。「新旧間」とは、立春をはさんで前後三日の一週間をさす。

もう20年にほどになるか、年越しから1月中にかけては、なんというか、釣りをする人が獲物を待つような、釣りはしたことがないけど、新年のいい兆しが見えないかと、目を凝らし、耳を澄ますような感じになる。

外からの兆しだけでなく、内からの兆しもある。経験的には後者の方が転機をつくる。耳を澄ますのは、その内におく。ある時ふと何かの思いにかられ、次の瞬間、心境の変化がパツとうまれ、そう、そうだ、そうしよう!という風になる。

さて今年は外か内か、どうなるか、そのときを〈待つ〉、1月半ば。

－1月15日の「モンテーニュ」－

ここ何年かのこと、精神の明るい輝きをとにかくも示しながらカトリックの信仰を表明しているどの人についても、それはうわべをいつわっているのだとみなし、彼が表立ってなにを言おうと、内心では改革派の信仰を抱いているにちがいないと、その人物を評価するつもりで、扱いさえする人びとがいるが、その考えはどんでもないとわたしには思われるのだった。あまりに自分の考えを強く信じて、反対側の考え方などはあり得ないと思ひ込むのは、よくない病気だ。

2024年1月17日(水) 晴れ

今朝は冷え込んだ。指先がかじかむ。日中は10度まで上がり、おだやかな晴れの日になる予報。阪神あわじ大震災から29年。

－ 前兆 －

「ルミナリエ」はまだやってた？ 検索してみると明後日の19日からだった。紆余曲折ありながらも続いている。

当時、すこし世のなかが落ち着いた頃に、「前兆」の話題が新聞などに載った。犬や猫、鳥などがいつもと違う行動をした、等等。大阪大学の有名な研究者の先生の話も興味深かった。というのも個人的にも、ヘンだなあと感じたことがあったから。

一つは前日のお昼に遠くからみた光景。自宅近くの池のそばを通ったとき、反対側で5、6人が柵に身をのりだして池の淵を見ていた。池にはカルガモだったか、住んでいた。直感的に、そのカルガモたちに何かあったんだろうと思った。この光景がやけに印象にのこった。

二つ目は空。14日の土曜は大阪市内で雪が降った。路面がうっすら白くなる程度だったが、15日も16日もずっと一面どんよりとした空が続いた。“ぜんぜん空が変わらないなあ…”と感じながら新年会の会場へ向かっていた。今もその時の光景がはっきり浮かぶ。

三つ目は余震。日付は17日になっていた0時半ごろ、地震だ!と体が感じて、パッと目がさめた。揺れがどのぐらいか、じっと身構えた。でも揺れてこなかった。足首をかさねていて、それが外れた振動かと思い、時計で時間をみて、また眠りについた。

この三つを阪大の先生に手紙をだしてお知らせした。するとメールが届いて、参考情報として使っていいかとお尋ねがあった。もちろん了承して、しばらくメールでの交流が続いた。それから数年して他界されたが、「前兆」を研究対象にされるだけあって、ユニークな方だった。

ちなみにこの大地震の一年前ぐらいだったか、MBSの夕方のニュースで、たしか猪名川に住む視聴者からの情報として、微小の地震がずっと続いているアナウンサーが報じていた。とくに詳しくとりあげていなかったけど、聞きながら、何でだろうと感じた。これも前兆だったか。

ー1月17日の「モンテニュー」ー

われわれは慣れとならわして祈っている。さもないければ、もっとよく言えば、祈りの文句を読むか発音しているかなのだ。これは結局のところ、見せかけでしかない。また、食前の祈りと食後の祈りのときに三回も十字を切りながら、……一日の他の時間全部、憎悪を貪欲と不正に身を入れている連中を見るのは、わたしの気にいらぬ。彼らの時間を悪徳のかずかずに、神の時間を神にささげて、埋め合わせ、とりあわせをしている。……こういう連中は、このような事柄について、どのような言葉を用いて神の正義を語るのか。

2024年1月19日(金) 雲→晴

明日土曜は「大寒」、予報では明日あさっては雨。来週は5°Cの日もある。去年から気温の上下がさらに小刻み。これが常態化する?

ー ありよう ー

去年は元俳優、2022年は歌人、2021年は詩人。文化な世界の人たちとも出会い交流できるのは仕事冥利につきる。交流まではできなかったけど、名だたる学者のかた数人と接点をもてたのは良い経験だった。

先日詩人の方から頂戴したものがある。ご本人が翻訳した「タゴール」の詩、Fruit-Gathering。著作権のことがあるから紹介はしないが、年始早々に続いた惨事をおもってのこと、たぶん他の身近な人たちにも贈っているのではないか。

同じように、どこかで、誰かが、衝動にかられて、自分なりの方法で、少しでもよりよい状態にしたいと、動いている人が少なくないと思う、そのはず。わたしもまたそうだろう。

そういえば今朝読んだ『モンテニュー』の著者の文章に、「人間のありよう ユメヌ・コンディション」という言葉があった。モンテニューの見せる「人間のありよう」のひとつが、下に紹介した『エッセー』からの一説。

象徴的、衝撃的な時にこそとわれる「人間のありよう」。肝に銘ず。

—1月19日の「モンテニュー」—

神の掬ほど、のびやかな、優しい、恵み深いものは何もない。それはこれほどまで過ちに満ちた嫌な存在であるわれわれを、そばへ呼びよせてくださる。また、われわれがどれほど卑しく、汚れていて、泥まみれであっても、また将来そうなるかもしれないとしても、そのようなわれわれに腕をさしのべてきて、その膝元にうけいれてくださる。それだからなおいっそう、埋めあわせに、正しいまともな見方でその掬を見ていなければならない。

2024年1月20日（土）

大阪城公園梅林

雨がいったんやんでいる間に、買い物がてら、梅林へ。天守閣へ向かう人は多いけど、手前のこの梅林に寄る人はほぼいない。だからゆったりと散歩できるのです。

梅林内はまだまだ寒々とした風景



すこしづつ花をふやす「冬至」



紅梅も咲き始め



案内によると、梅林の歴史は意外に浅い



2024年1月22日(月) 雲

昨日は結局ほとんど晴れなかった。一昨日は日中だけやみ、夜から明け方にかけて雨がふった。今日は午後からようやく晴れそうだけど、一気に寒くなる予報。それでも、5℃ならまだまし。

— 「経験」 —

いま音声で再度読み進めている『モンテニュー』(荒木昭太郎)、もう終盤にきていて、第11章「生活と生存の条件群」に入った。その今日の部分に、「経験」についての意味内容を、「森有正」の言葉を借りて、著者が紹介していた。

経験とは、個々人のそれぞれ特殊な体験のかずかずが、その当人の見方、考え方によって時間のなかで再想起、再検討されて、ある特別の、他の誰のものとも異なる、まさに個性そのものと言ってよいひとつの統合体となったもの。

その統合体は過去から積み重なってきているから、たしかに個性そのものになりえる。〈他の誰のものとも異なる〉というのが、ミソ。きょうだいといっても、年を重ねるうち、ライフスタイルは全然ちがってくる。一番身近な異文化コミュニケーションと考えればいいのかもかもしれない。

中井久夫先生が中心の共訳書『精神医学的面接』(ハリー・スタック・サリバン)、〈面接〉が目がひき、ちょっとく見るつもりで図書館で借りた。専門書なので読むこともない、読んでわからないはず。

するとさすが中井先生、巻頭の普通の目次に加えて、巻末に「詳細目次」を加えてあった。たぶん異分野の人の関心も予想して、あるいは人に密接にかかわる仕事の人の助けになるように考えて、と想像。

この詳細目次に過去の体験や経験を聴く大事が載っていた。例えば、職業だけでなく、「業余歴」も。業余とはあまり見慣れない、使い慣れない言葉、「本職以外の仕事、本来の仕事の余力ですること」とか。

経験と個性。経験がものをいう、という言葉もある。自分にどんな経験をさせるか、吟味は大事。

－1月22日の「モンテニュー」－

ずいぶん多くの九日の人びとが、われわれからほんの少ししか隔たっていないのに、夜露にあたるのをおそれるのはばかばかしいと考えている。われわれにとっては、それは大いに害になると思われているのだ。しかしわれわれの国でも、船乗りや農民たいはそれを軽く見ている。ドイツ人を敷ぶろんの上に寝かせると病気になってしまう。イタリア人を羽根布団の上に、またフランス人をカーテンのないベッド、火の入っていない部屋に寝かせると、やはり病気になる。スペイン人の胃は、われわれの食事の方式に耐えられない。またわれわれの胃は、スイスふうの酒の飲み方に耐えられない。

－1月23日の「モンテニュー」－

神からすこしずつ生命をさしひかれていく人びとは、神の恩寵を受けている。これは老年の唯一の恩恵なのだ。最後に死が来ても、その死はそれだけ実質が薄く、苦しみがすくないだろう。それは一人の人間の半分か四分の一の息の根をとめるだけのことだから。今もここに、わたしの歯が一本、別に痛みもせず、力をこめもしないのに、ぽろりと抜け落ちた。それがこの歯の寿命の本来の切れ目だったのだ。……このようにしてわたしは崩れていき、わたし自身からのがれ去っていく。

2024年1月24日(水) 晴

昨夜から風が強まり、今朝は大阪なりの極寒。風のせいで、〈この冬一番の寒さ〉が堪える。でも来週の木曜は日中16℃の予報…、いやはや。

－ あ、古書店へ寄ろう －

地下鉄北浜駅の南となりは堺筋本町駅。「船場センター街」が東西に心齋橋駅までつらなり、堺筋線は3号館と4号館の間。その3号館一階の東端に小さな古書店がある。

昨日の昼、買い物にでて、ふと、そこへ寄ろうと思った。いつもは目的があつて行っているので、“この本が呼んだのかもしれない…”。店頭の一歩はじめに見たコーナーの最初に目にとびこんだ、『老子の哲学』。

箱入りでかなり年季のはいった単行本。まっさきに著者の名前をみる。「大濱皓(おおはまあきら)」、はじめて見たような、『帛書老子』の参照にあったような…。

箱からだして、プロフィールを見る。1904年生まれ、沖縄県石垣出身…! このことが買う気にさせた。九大から東大で研究生活を送られたらしいが、ベースに信頼がおける、そんな感じがした。

「老子」はいったん節目をつけたけど、その哲学はずっといきつづけている、参考図書をおいておくのもいい。さて、いつ開くことになるか。

—1月24日の「モンテニュー」—

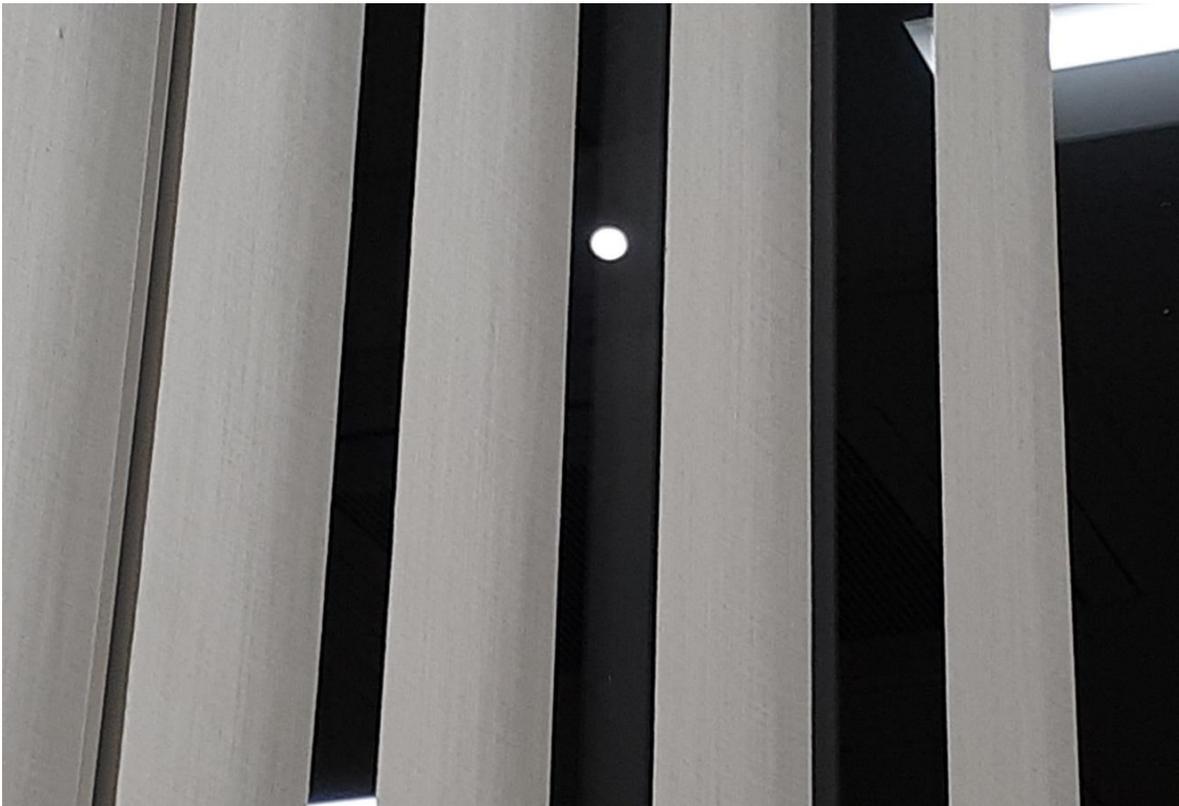
あらゆる不幸は、人がそれを避けるために死ぬのには値しない。そして、人間に関係したかすかすの事柄には、ひじょうに多くの突然の変化があるから、われわれがどの地点で自分の希望の末端まで来てしまったと判断するかは容易でない。

—1月25日の「モンテニュー」—

この世での無事安全、無痛無感、平静泰然、病患免除を、われわれが死の代価によって買い入れても、何のよいことにもならない。戦争を避けても、平和を享受できなければ何もならない。苦痛をのがれても、安息を味わえなければ何もならないのだ。

2024年1月24日（水）

午後6時すぎ、「女性チャレンジ応援拠点」の室内から満月は25日の深夜(26日午前3時前)だけど、ほぼ満月が室内から望めました!



2024年1月26日(金) 曇→晴

ここ2,3日は寒かった。暖冬傾向だったから久しぶりに真冬を感じた。アメリカは記録的な寒さになっているらしいし、ソウルも一昨日だったか、マイナス12℃。大阪にも韓国からの旅行者が目立つが、服装がそれほど厚着でない。この程度なら、どうってことなさそう。

－ 不文律 －

昨日話した「不文律」、意味は「互いに心の中で了解し合っているきまり」。広く社会生活一般から、ビジネスなど、ある世界・コミュニティごとに、さまざまなものがあると思う。

一般には例えば、街で偶然知人の男性が女性と一緒にいるところを見かけたら、先方がこちらに声をかけないかぎり、自分の方は知らない感じで通りすぎるもの、とか。

ビジネスの世界では例えば、知人の声かけてその顧客の仕事を受けたとして、そこへ追って自分からアプローチするのは厳に控えるべきなのは基本のキ。

ママ友の世界はどうだろう。経験のない世界だから、わからない。相当にいろいろとあるのは想像できる。もしその世界に入ったとしたら、“そんなこともわからないの、この人…”となって、疎外されるかも。

仕事期間が短くて家庭生活に入り長くなった人が、もしビジネスの世界に入ったとしたら、同じようなことはあり得る。ともあれ、不文律への想像力があれば、早々に気づいて、対処、学習できるというもの。

とはいえ、不文律にもよしあしあり。超越するのもアイデンティティ、パーソナリティ。

－1月26日の「モンテニュー」－

われわれが今30年来その中にいるこのような混乱の状態にあっては、あらゆるフランス人は、個人個人としてであれ、全体としてであれ、毎時間ごとに自分の命運が完全にひっくり返るきわどいところに立っているのを見ている。それだけになおさら、自分の心により強い、力にみちた備えを仕込んでおかなければならない。われわれを、柔弱でも無力でも無為でもない時代に生きるようにさせてくれた運命(sort ソール)に感謝しようではないか。

2024年1月28日（日）

昨年30周年をむかえた財団の催しに参加、久しぶりの人にも会えて、
楽しいひとときでした。

大阪・関西女性の未来創造会議
大阪男女いきいき財団30周年感謝祭

これまで財団とともに歩んでくださった皆様をお招きして、30年分の感謝をお伝えする場として、「大阪・関西 女性の未来創造会議～大阪男女いきいき財団30周年感謝祭～」を開催いたします。

私たちがこれまで注力し成長させてきた事業についてご報告するとともに、これからめざす未来を共に描くステークホルダーの皆様との出会いと交流を深める場をお届けします。
ぜひ、ご参加お待ちしております。

2024年 1月28日(日) 14:00～17:00

場 所：クレオ大阪中央 4Fセミナーホール
大阪市天王寺区上汐5-6-25

参加費：当日受付にておひとりさま1口(1000円)
(寄付金) 2口以上のご寄付をお願い致します。

※参加費はすべて「女性のチャレンジ支援基金」に寄付させていただきます。

ご出席・ご欠席のご連絡はこちらから

クレオ大阪中央
チャレンジカフェ関係者の手作り！
(飲み物&お菓子つき)

プログラム

14:00～ 開会のあいさつ
14:10～ いいね！#ジェンダー平等フォトメッセージコンテスト表彰式
14:40～ 「大阪男女いきいき財団の取り組みについて」
エピソードトークで紡ぐ財団のこれまでとこれから
①「女性のエンパワメント支援・リーダー育成事業」
②「カフェ開業支援」
③「困難な状況にある女性への支援」

15:45～ 交流タイム

※ 専業担当者
とステークホルダーが
コラボでトーク！

2024年1月29日（月） 晴

昨日午後少し雨がふり、不安定だったけど今日は一日安定して晴れそう。気温は10度前後で、風もないから、しのげる寒さ。今週末3日は節分、4日立春。

— 教訓を —

essaisで話した指名手配の人物が今朝息絶えたらしい。スマホに速報がはいっていた。DNA鑑定の結果がまだ出ていないようで、まだ特定はされていない。

ニュースを聞いたとき、どういう風に入院できたんだろう思った。保険証を偽造していたのか？ そうではなく、自費だった。今どき自費はレアケース、もう何もかも知られていい、すべて解放されて逝きたいと願ったよう。

ネット検索すると、事件のこともこの人物についてもウィキペディアに載っていた。犯行メンバーでただ一人前科ナシ、ただ一人捕まっていなかったとか。1975年の犯行だから、21才だった。

2年前だったか日経のフィナンシャルタイムズのコラムに、若者が世界的に幼稚化しているという記事が載っていた。49年前はそこまでではなかったと思うけど、自分の21才の頃を思い起こしても、なんて未熟だったんだろうと恥じる。

最期の間際、どれほどのことを捜査官に語る事ができたか、それらのどの程度をわたしたちは知ることができるか。ひょっとして録画されているかしら。できれば、一部始終を明らかにしてほしい。一つまた、わたしたちに人間としての教訓を得られる気がするから。

ー1月26日の「モンテニュー」ー

世界は永遠の変動の場であり、すべてのものがそこでたえず変動している。大地も、コーカサスの岩山も、エジプトのピラミッドも、全体の変動と彼ら自身のそれによって変動しているのだ。一定不変という状態すら、より緩慢な変動以外のなにものでもない。

2024年1月30日（火）

冬晴れ、昼休憩に大阪城公園の梅林へ



